



国民の森林・国有林

希少野生生物ゴイシツバメシジミの保護管理業務について検討会開く

「九州中央山地希少野生生物保護管理対策調査業務(ゴイシツバメシジミ)検討会」を2月

10日、熊本南部森林管理署(人吉市)において開きました。当検討会は、局が委託業務として行っているゴイシツバメシジミの保護管理業務について検討を行うことを目的として開いているものです。

成虫の観測数が少なかったが、気候条件や大気汚染などの影響で、休眠している間に幼虫が死んだのではないかなど、結果報告を踏まえた意見をいただきました。

などの業務結果の報告を行いました。その後、専門家から「今年からは昨年比べて



報告に耳を傾ける委員



保護管理対策について検討する参加者の皆さん

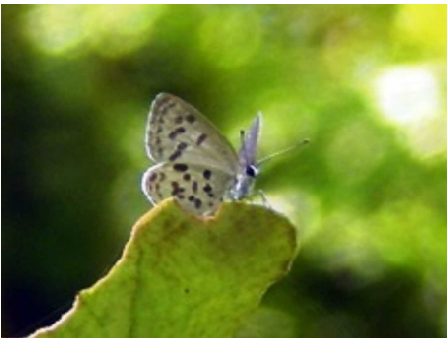
検討会には、ゴイシツバメシジミの専門家のほか、生息地の県や市町村、環境省などが参加しており、関係者が一同に集まる唯一の場となっています。検討会でははじめに、ゴイシツバメシジミの観測数

その他の議題として、熊本・熊本南部森林管理署で行っている巡視やゴイシツバメシジミのエサとなるシシンランの保護増殖業務に関する報告を行いました。シシンランについては、盗採の被害なども出ており、地元の市町村からも、監視カメラの設置を考えている

などの意見がありました。

本業務については、当検討会での意見や助言を整理し、本年度中に報告書を作成することとしています。

(担当計画課)



ゴイシツバメシジミ：絶滅危惧Ⅰ類



エサとなるシシンラン(イワタバコ科)

平成27年度 『治山事業連絡調整会議』を開催

11月中旬から2月下旬にかけて九州・沖縄各県において、「平成27年度治山事業連絡調整会議」を開きました。



治山対策について情報を交わす参加者（鹿児島県会場）

この会議は、平成18年度より毎年開いており、治山事業の連絡調整を図るため、各県の治山事業担当者および局治山課、署治山グループの担当者が出席し、当年度の治山事業の実施状況や今後の治山対策などについて、情報交換を行い課題を共有すること、その解決に向けた取り組みを図ることを目的に行っているものです。

また、年度当初には、山地災害などが発生した場合の情報連絡体制を九州・沖縄各県担当者間と確立することにより、迅速な災害情報などの共有を図っているところとです。

今後より一層の情報の共有を図るとともに、効率的かつ効果的な治山事業の推進、治山事

業のPRなど、情報発信も進めていきたいと考えています。

（担当）治山課

金武ダムまつりでPR

【沖縄森林管理署】金武ダム（金武町）敷地内において、「第1回金武ダムまつり」が開かれました。



丸太切りに挑戦する児童

前日の降雨で足下の悪い中でしたが、億首サクラまつりも同時に開かれたこともあり、多くの来場者で賑わいました。

当まつりでは、ヒカンサクラの植樹や水牛車体験、ダム湖遊覧などの体験イベントが開かれる中、当署は丸太切り体験、紙トンボ作り、森林パネル展・森林クイズ大会を行いました。

午後2時には雨が降り始めたため、少し早めに切り上げることとなりましたが、用意した丸太2本、紙トンボの材料200組、クイズ大会の参加賞のクリアファイル100枚がほぼ全て無くなってしまいう盛況でした。

今回のまつりを期に、国有林のない金武町でも、林野庁、森林管理署の仕事や山の魅力、森林整備の意義について理解・関心を持っていただくことを期待します。

虹ノ松原に松露復活を！

（唐津南生徒がクロマツを植樹）

【佐賀森林管理署】佐賀県立唐津南高等学校「松露プロジェクトチーム」の生徒10人が、職員の指導の下、虹ノ松原で抵抗性クロマツ50本を植樹しました。

松露プロジェクトチームは、虹ノ松原に松露を復活させようと日ごろから松葉かきや清掃活動に取り組んでおり、参加した3年生は最後の活動となりました。

生徒たちは、植樹する際には、植える苗の向きや穴の大きさなどを職員に尋ね、自分たちで植えた木がしっかり育つように、1本1本心を込めて作業を行いました。

唐津南高校の先生から「この体験は生徒たちにとって、とても良いものになった。一生の思い出になるだろう。来年度以降も機会があったら是非このような場を設けてほしい」と感謝の言葉を受けました。



抵抗性クロマツを植栽する生徒ら



和田光男さん

（福岡県北九州市在住）

私が「国有林モニター」に応募した背景として、現在の仕事環境に関する認証業務であること、かつて公害の町であった北九州に住んでいること、昨今

私なりのモニター活動

の地球温暖化が顕著にニュース等で報道されていることにあります。

自分には今まで森林、林業、国有林などに対する考えは何もありませんでしたが、仕事で森林認証などを調査していく上で森林にも興味を持ちはじめたことに丁度、「国有林モニター」

募集がありましたので応募しました。

毎月1回届けられる広報誌を隅から隅まで読み、日本の林業に携わる人たちの大変なことを知り、参考になっています。

自分のモニターとしての活動は、微力ではありましたが、送られてくる広報誌を近辺の人や

会社に興味のある方々に読んでいただけたこと。また、会社において毎月1回、森林や林業の今の現状や環境に関する知識について、自分で編集し、新聞を発行したことであります。

モニター会議には、遠方で参加はできませんでしたが、1年間の活動は自分にとって大変、有意義でありました。

これからも、毎月1回の広報誌を楽しく読まさせていただきます。と思っています。

平成28年度

夏大会

子ども達の生きる力を育む 森林環境教育の輪を広げるために

学校の森 子どもサミット

宮城県にて開催!!

「学校の森・子どもサミット」は、全国から集まった児童たちによる森林環境学習の発表や、先生や有識者の意見交換などを通じて、森林環境教育の活動の輪を全国へ広げていくことを目的に開催します。

「平成28年度学校の森・子どもサミット夏大会」の開催にあたり、学校林や「遊々の森」、その他身近な森林等を活用した学校教育における森林環境教育や今後の森林での活動への夢などについてに取り組んでいる学校と、サミットの趣旨にご賛同いただける企業・団体を募集します。



参加校募集

締め切り 平成28年4月20日(水)

- 開催日** 平成28年8月4日(木)～5日(金)
- 場所** 1日目：仙台市福祉プラザふれあいホール
2日目：仙台市近郊 自然体験フィールド
- プログラム(学年)**
- 1日目・児童による森林や緑を活用した学習の発表会
・有識者によるパネルディスカッション(大人向け)
・発表会の振り返りワークショップ(小学生)
・仙台市近郊施設に寄泊
2日目・森林体験活動(小学生)
・参加者の情報交換会・交流会



【参加校の募集】

- ①募集校数：全国から10校程度(申込多数の場合は、活動内容により選考し、その結果を4月下旬までに、申込みのあった小学校に直接通知します。)
- ②応募資格
- ①「学校林」や「遊々の森」(国有林をフィールドとして森林管理署と協定を結んでいる森林)など、身近な森林において森林環境教育に取り組んでいる小学校
 - ②校庭の樹木や身近な公園・緑地等を利用した森林に関連する環境教育や、林間学校等の機会において森林内での活動に取り組んでいる小学校
 - ③上記の①及び②に該当しないが、木材、木の実、キノコなど森林由来の資源やその他森林環境教育の教材等を利用した活動を行うなど、森林に関連する環境教育に取り組んでいる小学校
 - ④現在は、上記①、②、③のいずれにも該当しないが、学校間交流や環境教育等の経験から、今後、こういった活動に取り組みたいと考えている小学校
- ③応募条件
- ①パワーポイントによる7分程度の発表ができること
 - ②児童2名以上、先生1名以上が参加できること
 - ③児童の参加については、保護者の同意を得ていること
 - ④参加者の所属学校名、学年、氏名、顔写真等が、記者発表、ホームページ、SNS、報告書等に公表されることに同意できること
- ④参加費用
- 児童2名分と先生1名分の最寄り駅から会場までの往復旅費、開催日の食事代(1日目夕食、2日目朝・昼)及び宿泊費については、実行委員会で負担します。それ以外の移動経費及び食事代等、児童2名及び先生1名を超える参加者分については、参加者の負担となります。(プログラム中の移動は実行委員会で大型バスを準備します。)
- ⑤応募方法
- 申込用紙に必要事項を記入し、4月20日(水)までに、郵送、FAX又はメールで送付してください。(申込用紙は、下記のお問合せ先ホームページよりダウンロード又は実行委員会事務局へ電話、FAXもしくはメールで請求することもできます。)

【協賛企業・団体の募集】

サミットの趣旨に御賛同いただける企業・団体を募集します。

詳細は学校の森・子どもサミット実行委員会事務局までお問い合わせください。①応募費用一口5万円 ※20口以上は「特別協賛」

【お申込みお問い合わせ】

学校の森・子どもサミット実行委員会事務局認定特定非営利活動法人共存の森ネットワーク内

〒156-0051東京都世田谷区宮城3-10-9 経堂フコク生命ビル3階

TEL:03-6432-6580

E-mail:mail@gakkou-no-mori.org

FAX:03-6432-6590

Homepage: http://www.gakkou-no-mori.org



第61回愛林駅伝、号砲で一斉にスタートする生徒ら

第61回愛林駅伝開催される

【熊本森林管理署】熊本県山都町において、「青少年に自然愛護の心を育て、緑豊かなふるさと作りへの意識高揚をはかること」を目的に、本年度も愛林駅伝競走大会が開かれました。

当駅伝は1956年に始まり、今回で61回を数えます。山都町をはじめ近隣の中学校6校から15チームが参加し、矢部地区中心部を巡回する5区間14・3ギでたすきを繋ぎました。

当日はあいにくの小雨の降る中での大会となりましたが、沿道からの暖かい声援を受けてゴールを目指し駆け抜けました。

今大会では益城中Aチームが優勝しました。

綾プロ第23回連絡調整会議及び事業説明会を実施

次の10年に向けた取組みを確認

2月22日に宮崎県綾町役場会議室において、綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾プロ）第23回連絡会議が、協定5者（九州森林管理局、宮崎県、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会）の出席の下、開かれました。

会議では、平成27年度事業取組状況（進捗状況）、綾プロ管理面の策定、プロジェクトの運営体制、綾プロエリアの検討会設置について報告および提案がなされ、事務局提案どおり了承されるとともに、今後協定5者が連携をはかり各事業に取り組むことと確認されました。

また、綾町民を対象に毎年開いている綾プロの事業説明会を2月14日の「綾町公民館大会」に合わせ行いました。当日は、綾町公民館ホールに約600人が参加する中、宮崎森林管理署より「綾プロの10年間の取組と成果」について報告がなされるとともに、綾プロ主催で5月21日に開催予定である「綾・照葉樹林ロングウォーキング」への案内が綾町よりなされました。



綾町公民館ホールで町民に事業説明

（担当：計画課）

また、綾町民を対象に毎年開いている綾プロの事業説明会を2月14日の「綾町公民館大会」に合わせ行いました。

会議の冒頭、河野耕三（てるはの森の会代表理事）から「綾プロ協定以後、10年を迎え、大きな節目での連絡会議であり、次の10年を目指した重要な会議である。さまざまな課題もあり、今日の会議で議論いただきたい」とあり



次の10年に向け、第23回連絡会議で連携を図る模様



ウツギ類は初夏に一斉に白い花を咲かせます。『ト卯の花の匂う垣根に・・・』と歌われているのがウツギです。白い小さな花を円錐花序に幹一杯に咲かせます。

低山にはウツギ、マルバウツギが分布し標高が高くなるとヒメウツギが分布します。名前は髄が中空だからといわれていますが卯月（旧暦の4月）に咲く説も有力です。

「ウツギ」のつく樹木はスイカズラ科、ユキノシタ科、フジウツギ科、バラ科にあり、区別

101 ウツギ（ユキノシタ科）

身近で観察できるユキノシタ科のウツギ、ヒメウツギ、マルバウツギは全て髄が中空です。スイカズラ科ではコガクウツギ、ノリウツギ、バイカウツギ、ツクシヤブウツギの髄は詰まっています。コックバネウツギの髄は中空となっています。ウツギの名前がついていても髄が中空でないものもあります。

剪定がきれいにできることから、歌にあるように、垣根に利用され、建築や箱細工ではウツギから作られた木釘が重用され、爪楊枝の材料にもなっています。



樹木園ではいろいろなウツギを観察できます。



2月は逃げる、3月は去ると言われていますが、2月は本当に逃げるように終わってしまいました▼はや3月、巷では卒業シーズンとなり、卒業生をお持ちの親御さんたちには、一つの区切りとなる感慨深い時期となりました▼この時期、卒業生も多くなりますが、もう一つ自動車学校の生徒が増えます、道路では練習中の表示を付けた車が列をなして教習していました▼かく言う私の子供も、免許取得のため自動車学校に通っていましたが、なかなかうまくいかないようで、一言「自動運転の車になれば免許はいらないよね」▼これには一本取られた感がありました。後整理がされていくとは思いますが、自動車免許のいらぬ時代が来るのでしょうか▼アメリカでは自動運転の試験走行中に事故があったようですが、まだまだ人の手を離れて町中を移動、と言う段階ではないようです▼しかし、技術の進歩は飛躍的です、近い将来車は自動運転となるのでしょうか、子供には「生まれてくるのが10年早かった」と言っておこう。（や）